

国立大学法人北見工業大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程において確実な工学基礎能力を持った技術者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、大学の強み・特色、地域拠点としての機能を十分発揮するための教育研究組織の再編に向け、地域ニーズの把握や養成する人材像について検討するために「将来構想ワーキンググループ」を設置しているほか、全学的な視点からの「地域貢献」及び「国際交流」に関する推進戦略の策定や連携協力事業の推進等に向けた体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

寒冷地域における農業への「工学的」観点からの取組や地域雇用創出に向け、専任職員2人体制の学長企画室を設置するとともに、「医工連携分野」において、旭川医科大学、東京農業大学及び民間病院との間で、臨床下における計測や研究に係る連携を図ることにより、道東エリアにおける医療工学研究体制を確立している。また、特に研究において高い業績を上げている専任教員4名に対して年俸制適用職員給与規程を適用するとともに、平成28年度以降の新規採用教員の20%を年俸制適用職員として採用するなどの方策について、検討を開始している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 教育研究体制の整備

大学の強み・特色、地域拠点としての機能を十分発揮するための教育研究組織の再編に向け、地域ニーズの把握や養成する人材像について検討するために「将来構想ワーキンググループ」を設置するとともに、博士後期課程の各専攻で強化する研究分野について、学長、理事、各専攻主任で検討を行い、「表層型メタンハイドレート研究」等の特徴的な研究分野を中心に学長リーダーシップ経費を重点配分するなど、大学の強み・特色を強化していくこととしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 20 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部資金獲得支援による新規採択率の向上

他大学の URA (リサーチ・アドミニストレーター) の招へいによる研究計画調書作成に関する講演及び事務担当者が作成した研究計画調書記載ミス事例集を用いて注意事項説明を新たに実施するなど、「科研費パワーアップセミナー」の内容改善を行うとともに、科学研究費助成事業採択に実績がある特任教授によるピアレビューを実施することで、平成 27 年度科学研究費助成事業新規採択 (内定) 件数が対前年度比 2.07 倍、新規採択 (内定) 率が対前年度比 1.72 倍と大きく向上している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 研究活動の不正防止に係る積極的な取組

非常勤職員を含む全教職員に対しコンプライアンス教育の受講を義務化し、誓約書の提出を競争的資金の申請及び使用の要件とすること等により、研究活動における不正防止説明会の受講率 100 %を達成している。また、受講後には理解度把握のためのアンケート調査を実施しているほか、説明会の中で寄せられた疑義について、全学教職員にFAQを周知し、情報の共有を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域貢献・国際貢献に係る機能強化

「社会連携推進機構」の設置を決定し、全学的な視点からの「地域貢献」及び「国際交流」に関する推進戦略の策定や連携協力事業の推進等に向けた体制の整備をしており、北見市教育委員会との連携協定に基づき新たに小中学校教員の理科実験資質向上を図るための化学実験研修を開催しているほか、高崎健康福祉大学と学術・教育交流協定を締結し、高崎健康福祉大学が実施する海外英語研修に参加するなど、国際交流活動に関する協力・連携関係を構築している。

○ 産学官と報道機関との連携による防災・減災対策の啓発活動

地域の防災担当者や一般市民を対象とした、防災・日本再生シンポジウム「北海道／防災・減災リレーシンポジウムー冬の防災・危機管理を考えるー」を開催し、基調講演や气象台・自治体担当者等を交えたパネルディスカッションを通じ、産学官と報道機関とが連携して地域の特性に合った防災・減災対策の啓発活動を進めることの重要性について情報共有を行っている。

○ メタンハイドレートの調査研究の推進とその成果

「表層ガスハイドレート」研究のような大学の特色ある研究に係る専門分野横断的な幅広い講義を提供するとともに、他大学の学生及び教員と合同で調査航海実習等の取組を実施することにより、国際性を含めた幅広い視野を有する人材の養成に効果を上げているほか、メタンハイドレートの存在を示唆する「メタンの吹き出し」を発見するなどの成果を上げている。